

市町村と県をネットワークする

# NIIGATA 市町村情報

No.659

地方自治とまちづくりの情報誌



©新潟県観光協会



©新潟県観光協会



- 2 特集** 「金山」が拓く、新潟のインバウンド新時代へ  
～世界遺産「佐渡島の金山」を契機とした佐渡市のインバウンド受入環境整備事業～
- 6 地域づくりインタビュー**  
新潟県地域おこし協力隊（ニイガタコレボレーターズ）  
ユ ミンヒョンさん
- 8 施策・取組紹介**  
マイナンバーカードの更新需要を踏まえた  
対応と利活用の拡大について
- 10 地域伝言板30**
- 20 若手職員が突撃!**  
前例なし、マニュアルなしの10年計画に挑む!  
新潟市「おいしさDX」2年目のリアル
- 22 人事交流近況報告**  
桑原 悠さん（南魚沼市→県環境対策課）  
米倉 菜美さん（県→新潟市都市交通政策課）
- 23 ふるさと納税お礼品の紹介**  
村上市 魚沼市 粟島浦村



「金山」が拓く、  
新潟のインバウンド新時代へ  
「世界遺産「佐渡島の金山」を契機  
とした佐渡市のインバウンド受入  
環境整備事業」

インバウンド（訪日外国人旅行）が日本全国で過去最多を更新し続ける中、新潟県においても、2025年の外国人延べ宿泊者数が約84万9,000人（前年度比60・6％増）と過去最多を記録し、全国2位の伸び率を達成しました。しかし傾向としては、雪を目的とした冬季の来訪が多く、各地域における通年での誘客には課題が残ります。

こうした状況の中、2024年7月に世界文化遺産に登録された「佐渡島の金山」を持つ佐渡市が、インバウンド誘客・受入体制整備に先駆的に取り組んでいます。本特集では、取材を通じて浮かび上がった佐渡市の挑戦を深掘りしながら、県内他市町村が今後のインバウンド施策を検討するうえでのヒントをお届けします。

1 なぜ今、インバウンド受入体制の整備が必要か

インバウンドの消費単価は国内旅行者の2・3倍ともいわれ、地域経済への波及効果は大きく、観光庁が重視する「高付加価値旅行者層」（1回の訪日で100万円以上を消費す

2025年の総入込客数は約49万7,000人（2026年目標55万人、2027年目標60万人）と、コロナ禍の落ち込みから順調に増加しています。特に目立つのは「新規訪問者」の増加であり、世界文化遺産登録の効果で関西・北海道・中国・四国・九州など遠方からの来島者が増えており、全国的な認知度向上という好循環が生まれています。

一方、2025年のインバウンドは7,155人とコロナ前（約8,000人弱）の水準まであと1割のところまで回復し、現在の構成は台湾が約25％で最多、次いでアメリカ、シンガポール、中国（※）、香港と続きます。今回、佐渡市観光振興課に取材を行う中で、世界文化遺産登録によるインバウンド誘客への効果は限定的であること、継続した認知度向上への取組が最重要であることが浮かび上がってきました。

※台湾・香港・マカオを除く地域

3 佐渡市の先進的取組

① 認知度向上が最優先——「外国人旅行者誘致事業」と4カ国重点戦略

「世界文化遺産の認知は、国内では好調ですが、海外ではまだ浸透していません。香港で

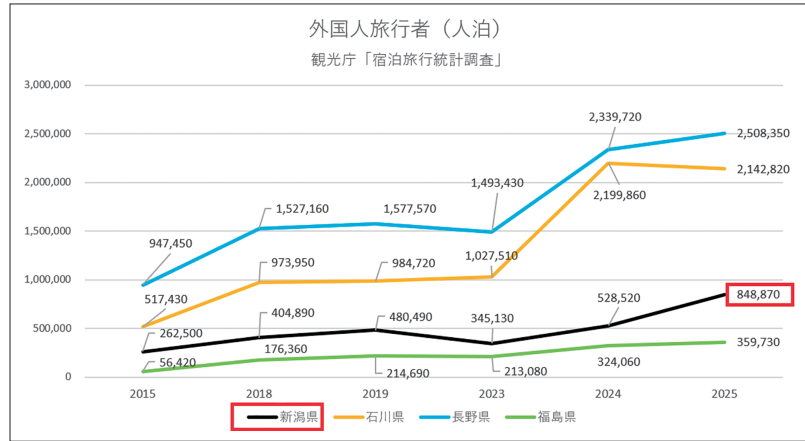


【取材に対応いただいた  
佐渡市観光振興課・番場さん】

る富裕層）を地方に呼び込むことは、いまや国の重要施策となっています。

こうした流れを受け、新潟県では2024年9月に「佐渡・新潟エリア」が観光庁の「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業」のモデル観光地（2027年度までの事業）に選定されました。コアバリューを「大地と雪の恩恵」と定め、エリア全体の高付加価値化が本格的に動き出しています。

一方で、国内旅行者は人口減少・少子高齢化により今後の減少が見込まれており、「将来の観光需要を支えるのはインバウンド」という認識は強まっています。「まだ先のこと」



【近隣県の外国人旅行者数の比較】

新潟県は2025年に前年比で突出した伸び率を記録したが、2025年の外国人旅行者数を比較すると、長野県は新潟県の約3倍、石川県も約2.5倍の来訪があり、誘客拡大の伸びしろがある。



【アクティビティや自然、文化を満喫するアドベンチャー・ツーリズムも世界の旅行トレンド】

ではなく、今から受入体制の整備を始めることが求められています。

2 世界遺産登録がもたらした変化——佐渡市の現状

「佐渡島の金山」は1601年の開山以来、江戸幕府の財政を支えた日本最大級のお金山。手作業で金を採掘し続けた技術体系と、その生産体制を伝える鉱山跡や鉱山町が現在も残ることが評価され、2024年7月27日、世界文化遺産に登録されました。

登録後は国内旅行者の増加が顕著で、



【フォトジェニックな佐渡の人気スポット（写真左：万畳敷、写真右：北沢浮遊選鉱場跡）】

アジア圏（台湾・中国・シンガポール）に対してはSNSインフルエンサーの招聘を主軸に、フランスに対しては現地の旅行メディアへの掲載を積極展開。また、世界的な自転車メーカー「ジャイアント」を擁する台湾に、サイクリングコンテンツを提案するなど、国ごとのフックを探しながら地道なプロモーションを重ねています。

シンガポールは県が狙うインバウンドの高付加価値旅行者層も厚いことから、今年度は県と連携しながらシンガポール現地の旅行会社やメディアの招聘を展開する予定です。

② デジタルで選ばれる佐渡をつくる——SNS〆ミ創出と受入環境のデジタル化

認知度向上のもう一つの柱が、2026年7月から開始しているUGC（ユーザー生成コンテンツ）キャンペーンです。佐渡を訪れた一般の旅行者が「発信したくなる仕掛け」として、エンゲージメントの高いSNS投稿者に「佐渡産コシヒカリ1年分」「乗船券と宿泊券or食事券セット」といった景品を贈るキャンペーンを実施しています。

私の推し

SADO

キャンペーン

ただの思い出じゃない“あなただけの推し”を教えて

観光客、島民、どなたでもご参加可能！

素敵な投稿には合計70名に豪華賞品をプレゼント！

投稿期間 2026年 7/1 ~ 10/31



費用の一部は佐渡汽船や宿泊施設からの協賛で賄われており、官民連携のリピーター育成策でもあります。「まず来てもらい、体験してもらい、情報を拡散してもらう——この需要の連鎖をデジタルで先回りして創出する。」（番場さん）という発想は、予算に制約のある地方自治体にとって参考になるアプローチです。

また、インバウンドに向けた「受入環境のデジタル化」も積極的に進めています。多言語看板などのハード整備は維持管理コストを伴いますが、佐渡市はソフト対策での環境整備に注力し、市内民間事業者へのGoogleビジネスプロフィール（Googleの検索やマップに表示される店舗や企業の情報）の充実について働きかけを行っています。

まずは「オンラインで選ばれる地域」になることを重視し、情報に厚みをもたせ、見つけやすくし、旅行者の「行きたい」というニーズを創出。人が来れば民間も投資を始めるという「誘客先行・民間主導」の好循環を生み出す戦略です。

③ 富裕層の心をつかむ高付加価値コンテンツ  
——人間国宝や芸能で魅了する「本物の体験」

観光庁の「プレミアムインバウンドツアー事業」を活用し、佐渡市とDMOである佐渡観光交流機構は富裕層向けの高付加価値コンテンツを造成・販売しています。その核心にあるのは「本物との出会い」というコンセプト。旅行者に特別な体験を提供する代表的な3つのコンテンツを紹介します。

地域未来交付金を活用した  
佐渡市の事業

佐渡市は内閣府の「地域未来交付金（地域未来推進型（旧・第2世代交付金）」を活用し、インバウンド戦略の中核事業を展開しています。2025年度には「世界文化遺産『佐渡島の金山』歴史・文化を核としたサステイナブルな滞在型リゾート推進事業」を実施。2026年度は前項でも紹介した「外国人旅行者誘致事業」による4カ国向けプロモーションのほか、佐渡のブランドデザインやモデルコース造成等を展開しています。

この交付金は、地方公共団体の自主性と創意工夫に基づく取組を幅広く支援するもので、観光振興・インバウンド誘客のような地域経済維持・拡大の取組にも積極的に活用できます。観光まちづくりの文脈で積極的な活用を検討してみてはいかがでしょうか。

活用のご相談は新潟県市町村課財政班までご連絡ください！

新潟県総務部市町村課財政班

TEL：025-280-5058

4 佐渡市の取組から参考になるポイント

佐渡市の取組から、県内市町村がインバウンド受入を進めるうえでヒントになりそうなポイントを整理しました。

| No. | ポイント                      | 佐渡市の事例                                   | 他市町村での応用イメージ                                 |
|-----|---------------------------|------------------------------------------|----------------------------------------------|
| ①   | ターゲットを絞る                  | 4カ国（台湾・中国・シンガポール・フランス）に絞り、国ごとに最適手法でアプローチ | 全方位ではなく「刺さる市場」を数カ国に絞り込み、継続的なプロモーションを展開する     |
| ②   | SNSを活用した口コミ創出～UGCで広告費を抑制～ | 「米1年分」「特産品セット」をフックに旅行者をアンバサダー化（民間も一部協賛）  | 特産品・体験との組み合わせで、行政コストを抑えたSNS拡散のしくみをつくる        |
| ③   | 高付加価値コンテンツで富裕層を呼び込む       | 無名異焼体験・鼓童稽古場体験、伝統芸能等を軸に商品を造成・販売          | 地域の「本物（伝統工芸や農業体験など）」を磨きあげ、付加価値の高い滞在型コンテンツを造成 |
| ④   | まず誘客、後から投資～需要を先に作る～       | 行きたい、体験したい、情報を発信したいという需要と連鎖をデジタルで先回りして創出 | ハード整備の前に「デジタルで選ばれる地域」になることが先決。訪問者が増えれば民間が動く  |
| ⑤   | 地域未来交付金をインバウンド施策に積極活用     | インバウンドに限らず、観光誘客に関する事業を幅広く交付金で計上          | 地域未来交付金（地域未来推進型）は観光・インバウンド誘客にも活用可能           |

最近では、著名な方がこれらの体験の様子をSNSで発信したことで注目が高まっています。高付加価値旅行者は、「誰も知らない本物を体験した」という希少性と「そこでしか得られないストーリー」に対して対価を払います。人間国宝・世界的芸能集団・歴史的な鉱山遺産という、佐渡の「唯一無二のコンテンツ」をパッケージ化し、体験の深さに価値を置く取組は、まさにその需要に応えるものとして期待されます。



【地域の本物が世界の高付加価値旅行者を魅了する（写真左：無名異焼の制作体験、写真右：鬼太鼓）】

5 取材を終えて

今回の取材を通じて印象的だったのは、世界文化遺産に依存しない佐渡市の姿勢でした。「認知度向上は地道にやり続けるしかない」という番場さんの言葉には、インバウンド誘客の本質が凝縮されていました。

日本を初めて訪れるインバウンドは大都市を嗜好する一方、リピーターは「まだ見ぬ本物の日本」を探して地方へ向かい始めています。地域の歴史・文化・自然という「オンラインワンの価値」を磨くことは、佐渡市のみならず、新潟県のインバウンド振興の突破口になるはずです。

地域未来交付金等を活用いただき、新潟県が世界の旅行者を魅了する観光地となつて欲しいと願います。



# 地域づくり インタビュー



新潟県地域おこし協力隊  
(ニイガタコラボレーターズ)  
ユミンヒョンさん

今回は、県の地域おこし協力隊（ニイガタコラボレーターズ）として令和7年度から活動するユミンヒョンさんにお話を伺いました。

ユさんは、県の地域おこし協力隊としては初めての外国籍の隊員として、県内在住外国人の日本語教育の推進を中心に、外国人材の定着支援や地域活動への参画促進に取り組んでいます。

そんなユさんに、協力隊として活動することになった経緯や取組、今後の展望などについて伺いました。

## 地域おこし協力隊として新潟で活動するまで

——地域おこし協力隊に着任された経緯について教えてください。

2020年12月、JETプログラムを通じて初めて新潟県に着任しました。JET国際交流員として県庁の国際課に配属され、約4年間、主に通訳翻訳業務を担当していました。その中で、小中学校から「韓国について

紹介してほしい」という依頼を受けることがあり、文化理解講座を何度か行いました。講座を重ねるうちに、自分の国について紹介することが楽しく感じられるようになり、参加者の方々から「韓国のことを知れてよかった」と言っていただけの経験から、新潟県内で韓国だけでなく、さまざまな国や外国人について知る機会がもっと増えたいと考えようになりました。

任期終了後は一度東京へ移りましたがその後、偶然、外国籍の新潟県地域おこし協力隊を募集するという情報を目にしました。ミッション内容が外国人の県内定着に関するもので、これなら私の経験を生かせると感じ、地域おこし協力隊に応募して、今に至っています。

——実際に新潟県に住んでみて、どのように感じていますか。

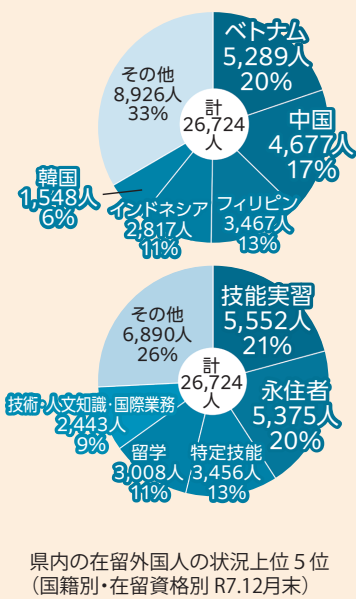
正直に言うと、JET国際交流員の任期が終わったタイミングで、新潟に残りたい気持ちがありました。ただ、国際交流に関わる仕事や、外国人を積極的に採用している団体が新潟県内には多くなく、働く場を探すとなると東京へ行くしかありませんでした。そのため、一度東京で就職することになりました。

新潟で暮らしてみても一番魅力に感じるのは、色々な面で暮らしやすいことです。特に新潟市は交通や買い物の面で不便がなく、それでいて人が多すぎて混雑することはありません。だからこそ、ちょうどいい快適さがあると感じています。そしてもう一つは、人の温かさです。新潟の方々には本当に親切で、安心して暮らせる雰囲気があります。そうした環境に触れる中で、「この場所に長く住みたい」と自然に思うようになりました。

## 現在の活動内容

——現在どのような活動を行っていますか。

「外国人と日本語を使って交流する場づくり」と「日本語教育の推進」という2つの活動を行っ



——ユさんが活動をするにあたり、その根底にあるものはなんですか。

私の根底にあるのは、「自分の中の当たり前を越えていく経験がとても楽しい」という感覚です。大学生の時に初めて日本へ留学した際、自分の文化では当たり前だったことが、海外では当たり前ではないと気づきました。その経験はともなう新鮮で、新たな世界を見る視点を得る機会になりました。だからこそ、交流イベントを通じて、参加者の皆さんにも同じ経験をしてほしいと思っています。外国人参加者にとっては、日本人はこう考えるんだとか、こういうことに慣れているんだと気づく機会になりますし、日本人にとっては、もし外国人について少し誤解があったとしても、この人はこういう文化で育ったから、こういう考え方をするんだと理解が深まるきっかけになります。話さなければ、相手のことはイメージでしか捉えられません。だからこそ、一番大切なのは、実際に話すこと、そしてその人を知ることだと感じていますし、お互いの視点が広がり、理解が深まる場をつくっていきたいと思っています。

## 今後の展望

——任期が終わったその後の展望を教えてください。

できれば新潟に残り、地域おこし協力隊としての経

ています。一般的に「国際交流」と聞くと、海外で行うものという印象や、英語で話さなければならぬという少し堅いイメージを持たれがちですが、私が今一番大切にしているのは「日本語で交流すること」です。最近では、その一環として日本語で行う料理教室を開催しました。

日本語で交流する一番の目的は、単に言葉を教えることではなく、外国人の方々が日本語を通じて地域住民と「関係」を築き、暮らしに参加していく土台をつくることにあります。日本語が分からない状態では地域のルールから排除されやすくなってしまうからこそ、日本語を通じて関係を作る場が不可欠です。そのため、私のイベントは基本的にすべて日本語で進行しています。

また、このように日本語を通じて関係を作っていくことは、地域おこし協力隊として、もっと地域と関わりたいという想いにも繋がっています。今考えているのは、新潟市（沼垂地域や万代のハジマリヒロバなど）、燕市、三条市でイベントを開催し、さまざまな人が集まる場にしていくことです。地域の魅力を生かしながら、外国人と日本人が自然に交流できる空間をつくっていきたいです。

——「新潟県地域おこし協力隊初」外国籍隊員として何か意識されていますか。

そこまで強く意識しているわけではありませんが、新潟県地域おこし協力隊で初めてという点については、プレッシャーというよりも、自分の活動が、今後の外国籍隊員のモデルになる可能性もあるので、少し責任を感じる部分はあります。

また、県の地域おこし協力隊だからこそ、さまざまな場所で活動でき、各市町村と連携できるというのは大きなメリットだと感じています。実際に、各市町村で活動している地域おこし協力隊の方々とも、

験を生かして、外国人に関わる仕事を続けていきたいと考えています。理想の姿は、自分の活動拠点を持ち、そこで「このようなイベントをやりたいです」という方が自由に企画でき、外国人と日本人が交流できる場を提供することです。

現在は、私自身がブレイヤーとして企画し、主催し、当日の運営まで一人で行っていますが、できることや得意なことにはどうしても限界を感じています。

今後は経験を積んだうえで、より多くのブレイヤーが集まり、それぞれの得意分野を生かして活動できるような場をつくりたいと思っています。最終的には、ブレイヤーとして動く立場から、場を提供するホスト側へと役割を広げ、私がつくった場を多くの人に使ってもらえるようになることが理想です。



異文化交流の料理教室

## ユミンヒョンさん



韓国議政府市（ウイジョンブ市）出身。同市は新潟市と友好都市協定を結んでいる。大学時代に日本へ留学したことをきっかけに来日し、その後JETプログラムの国際交流員として出身地とつながりのある新潟県で勤務。文化紹介や国際交流の現場で経験を重ねたのち、新潟県地域おこし協力隊として活動を開始した。外国人と地域をつなぐ取組や、日本語を通じた交流の場づくりに力を注いでいる。趣味は散歩とグルメ。



# 施策 取組 紹介

## マイナンバーカードの更新需要を 踏まえた対応と利活用の拡大について

総務部市町村課  
行政班

マイナンバーカードは、各種行政手続のデジタル化を支える基盤として、現在では多くの住民にとって身近なものとなり、県内の保有率は、令和8年6月時点で83・9%（全国83・4%）となっています。

一方で、近年、マイナンバーカードや電子証明書（以下「カード等」という。）の有効期限切れ対象者が増加しており、総務省によると、令和8年度の全国の想定更新件数は、マイナンバーカードが約590万件、電子証明書が約1,430万件と見込まれています。

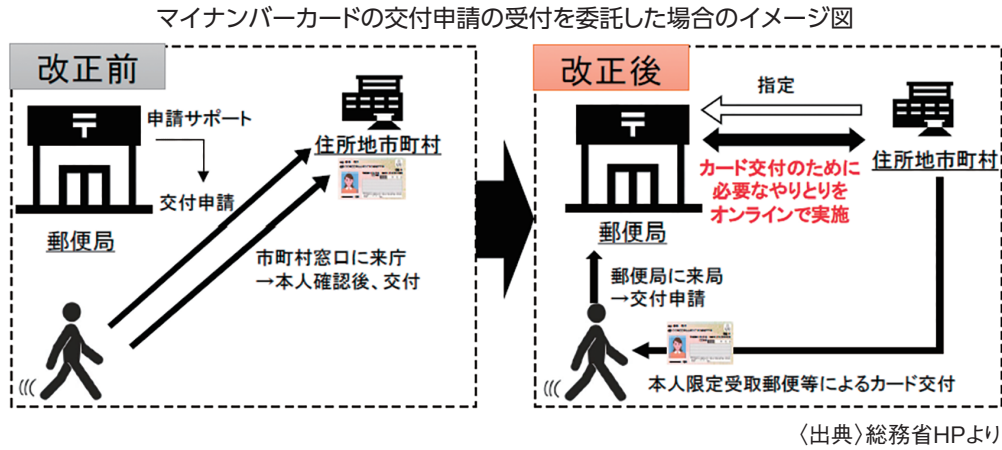
市町村においては、こうしたカード等の更新需要への対応として、住民利便の向上及び業務効率化の観点から申請受付体制の構築等を行うとともに、マイナンバーカードを持つメリットを感じられるよう、利活用シーンを広げていくことが重要です。

| マイナンバー制度の変遷 |                                                        |
|-------------|--------------------------------------------------------|
| 年月          | 項目                                                     |
| H28.1       | マイナンバーカード交付開始                                          |
| R2.2        | コンビニ交付サービス導入                                           |
| R3.10       | 「マイナ保険証」本格運用開始                                         |
| R5.6        | 郵便局でマイナンバーカードの交付申請の受付等が可能に（郵便局事務取扱法の一部改正（R5.6.9公布・施行）） |
| R6.12       | マイナ保険証を基本とした仕組に移行                                      |
| R7.3        | 運転免許証との一体化が可能に                                         |
| R7.9        | 「スマホ保険証」利用開始（機器整備した機関のみ）                               |
| R7.10       | 「マイナ救急」全国消防本部で導入開始                                     |
| R8.5        | カードに氏名の振り仮名やローマ字表記の記載が可能に                              |
| R8.6        | 在留カードと一体化したマイナンバーカードの交付申請受付開始                          |

交付申請の受付等を取り扱う郵便局は23団体78局（令和8年3月末時点）、新潟県内では、糸魚川市や佐渡市で実施されており、今後さらに活用が進むことが期待されます。

○糸魚川市（市内7局）  
電子証明書の発行及び更新、暗証番号の初期化

○佐渡市（市内4局）  
電子証明書の発行・更新と暗証番号の初期化、カード交付受付・引渡及び記載事項変更と再発行



### 1 更新件数の増加に向けた対応

カード等の更新件数の増加に向けた基本的な対応として求められるのは、確実かつ効率的に対応できる窓口体制の整備です。総務省通知（令和8年1月21日付け総行マ第5号「マイナンバーカード及び電子証明書の更新需要を踏まえた対応等について」）では、カード等の更新予約をした方が窓口に来てから、概ね30分以内に作業が完了することを目指して、窓口等の体制を確認の上、必要な体制拡充等の見直しを検討することとされています。

総務省は、この体制を確保するための具体的な対応として、次のとおり例示しています。

- ① 駅周辺や公共施設等での臨時交付窓口の設置
- ② 土日祝日・夜間開庁の拡大
- ③ 予約制の導入・拡大
- ④ 窓口の体制強化、民間委託の導入・拡充
- ⑤ 郵便局へのカード等の申請受付事務等の委託の推進

予約制については、交付通知書及び有効期限通知書が届いてから速やかに予約できる環境整備が必要です。また、これらの取組の詳細について、広報誌やホームページ等において、住民に対して適切に周知・広報することが求められています。

加えて、病氣、身体の障害その他のやむを得な

中山間地域や高齢化率の高い地域などにおいて、住民が日常的に利用する郵便局で手続きを完結できる意義は大きく、郵便局の活用は、住民利便の向上と市町村の窓口業務の効率化につながります。

### 3 国の支援等

国ではマイナンバーカードや電子証明書の更新需要の増加への対応や出張申請受付等の推進など、マイナンバーカードの取得を希望する国民に対する円滑な取得環境・交付体制を整備するため「マイナンバーカード交付事務費補助金」を交付しています。対象経費には、前述の「窓口体制の整備（臨時交付窓口を含む）」や「郵便局への委託費用」が含まれており、積極的な取組が期待されます。

また、全国各市町村の取組状況の見える化を図り、市町村の状況を客観的に把握し、自発的な取組の改善に繋げられるよう、「マイナンバー交付状況等に関するダッシュボード」（総務省HP）が公表されています。市町村別に窓口対応状況、混雑状況、環境整備の取組などを確認でき、類似市町村との交付状況等の比較ができるため、体制整備の検討の際に参考とすることができま

### 4 利活用シーンの拡大

更新対応を進めるとともに、マイナンバーカードの利活用シーンの拡大も重要となります。

現在、マイナンバーカードの利活用シーンは着実に広がっており、コンビニ交付サービスでは、住民票の写しや戸籍証明書、印鑑登録証などを身近な店舗で取得することが可能です。

マイナ保険証の開始に続き、運転免許証や在留カードとの一体化も実施されており、今後も社会保障等の基盤整備や行政事務の効率化としての利活用

い理由により市町村の庁舎等に出向くことが困難な場合の「代理交付」や、市町村職員が施設や個人宅等を訪問する「出張申請受付」も可能となっています。

こうした事例を参考にしながら、各市町村において、カード等の更新に係る業務の円滑な実施等に向けた対応を進めていく必要があります。

### 2 郵便局の活用

こうした中で、特に注目されるのが郵便局の活用です。郵便局は地域に広く配置され、住民にとって身近で利用しやすい拠点であることから、マイナンバーカード関連事務の受付場所として大きな可能性を持っています。令和5年の郵便局事務取扱法の改正により、市町村が指定した郵便局では、①電子証明書の発行・更新等の受付、②マイナンバーカードの交付申請の受付等を取り扱うことができるようになりました。

実施団体からは、書類の受理決定のみで済むため対応時間が1件当たり約10分短縮されたことや、比較的人口の多い地区の郵便局で月20件以上を取り扱い、窓口の混雑分散につながっているとの声も示されています。

全国で、電子証明書の発行・更新等を取り扱う郵便局は92団体308局、マイナンバーカードの

シーンの拡大が見込まれます。

また、市町村におけるマイナンバーカードの利活用事例も増えています。地域医療ネットワークと連携した診察券利用、避難所受付での本人確認や安否確認、地域公共交通における割引運賃の適用や電子母子手帳サービスとの連携など、マイナンバーカードは行政手続きにとどまらず、地域生活を支えるツールとしての役割を広がっています。

新潟県内においても、マイナンバーカードの読み取りによる本人情報確認を行う、いわゆる「書かない窓口」の取組のほか、図書館カードとの連携や投票所での受付などに活用されています。

### 5 おわりに

近年、マイナンバーカードは急速に普及が進んでおり、生活の様々な場面で活用されています。

更新需要への対応においては、住民の利便性向上及び業務効率化の観点から、必要に応じて、体制の拡充や民間委託の導入・拡充などを検討する必要があります。

マイナンバーカードは、取得や更新の手続きが負担とならず、利便性の高い環境を整えることで、その効果を十分に発揮することができるのではないのでしょうか。更新需要に適切に対応しながら、利便性を高める取組が、市町村において一層重要となっています。







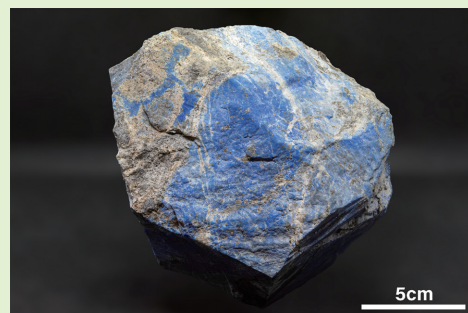
情報発信

## 糸魚川市

## 日本初のラピスラズリ発見

令和8年2月27日、国立科学博物館の松原聡名（まつばら 聡な）  
 誉研究員らにより、糸魚川の岩石から「ラピスラズリ」が発見されました。ラピスラズリは、ツタンカーメンのマスクや正倉院宝物などにも用いられてきた、濃い青色（瑠璃色）の宝石です。フェルメールの絵画では、青い絵の具「ウルトラマリン」の材料として使用されています。これまでラピスラズリの宝石質な原石はアフガニスタン産など外国産でしたが、日本国内での発見は今回が初めてです。

糸魚川ユネスコ世界ジオパークでは、この歴史的な発見を受け、「国石」や「新潟県の花」であるヒスイを含め貴重な地質資源を守りながら活用する取組を進めています。今年の9月19日から開催されるフォッサマグナミュージアムの特別展「瑠璃の宝石展」と併せ、ぜひ「石のまち糸魚川」にお越しください。



糸魚川産ラピスラズリ

問い合わせ先／  
 糸魚川市教育委員会 文化スポーツ課  
 (糸魚川フォッサマグナミュージアム)  
 TEL 025-553-1880



情報発信

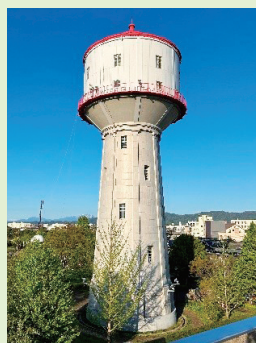
## 長岡市

長岡市水道通水100周年  
「百年、潤ス。」

長岡市の水道は、大正15年（1926年）8月に一部給水を開始し、今年で100周年を迎えます。これまで長きにわたり、市民生活や地域産業を支え、安全で安心な水を届け続けてきました。

この節目を記念し、水道局では「百年、潤ス。」をキャッチフレーズに、水道事業の歴史や魅力を広く発信する記念事業を展開しています。長岡造形大学と協同で作成した記念ロゴマークをはじめ、記念デザインマンホール蓋の設置や、水道タンクをモチーフにした公式キャラクター「ながタン」の活用などを通じて、水道事業への理解と親しみを深める取組を進めています。

今後も水道事業の歴史を次世代へつなげながら、市民の暮らしを支える大切なライフラインとして、安全で安心な水の供給を未来へつないでいきます。



問い合わせ先／  
 長岡市水道局 業務課  
 TEL 0258-34-1412



情報発信

## 妙高市

「ルリモン&らいどん」  
LINEスタンプ販売中

妙高の魅力がぎゅっと詰まった妙高市PRキャラクター「ルリモン」と「らいどん」のLINEスタンプを販売中です。ミズバショウや笹ヶ峰牧場の牛、スキーや温泉、日本酒やコメ、艸原祭や関山神社火祭りなど、妙高ならではの風景や文化をモチーフにしたデザインが盛りだくさん。「おいしい」「イェーイ!!」「ごゆっくり」など、毎日のトークで使いやすい言葉もそろっており、家族や友人との会話を楽しく彩ります。かわいらしい表情やユニークなポーズなど、思わず他のスタンプも見なくなるラインアップです。妙高を知っている人も、まだ知らない人も楽しめる全16種。1セット190円・70コイン（LINE内通貨）で販売しています。ぜひチェックしてみてください。



「ルリモン」(左)「らいどん」(右)の自己紹介など詳しくは二次元コードから。

問い合わせ先／  
 妙高市企画政策課 政策・広報グループ  
 TEL 0255-74-0004



情報発信

## 三条市

## 八十里越バンジージョーフェスを開催

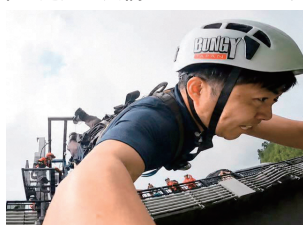
令和9年夏の暫定開通を控えた国道289号八十里越の機運醸成イベント「八十里越バンジージョーフェス」を開催しました。

八十里越区間にある川面まで約100mの高さの八十里越天空大橋からのバンジージャンプ「新潟バンジージョー」には三条市長も参加し、他の参加者と共に通常は入ることができない工事区間での貴重な機会を楽しみました。

また、スポーツセンターはやぶさでは、八十里越天空大橋からのバンジージャンプの疑似体験や新潟バンジージョーのライブ中継、新潟と福島の商品販売やPRブースなどの出店、八十里越に関連するコンサートなど、工事区間のためジャンプ会場に入ることができない方々も楽しめるイベントを開催し、会場は大盛況でした。新潟と福島をつなぐ新しい道の開通に向けて、引き続きこの機運を盛り上げてまいります。



八十里越天空大橋からのバンジージャンプ



三条市長もバンジー!

問い合わせ先／  
 三条市 経済部 営業戦略室  
 TEL 0256-34-5603



情報発信

## 上越市

直江津港開港60周年・直江津  
港湾協会設立70周年記念事業

関税法による直江津港の開港指定から60年、直江津港湾協会設立から70年の節目を迎え、市民をはじめ多くの方々に港の役割や魅力を身近に感じてもらうため、記念事業を実施します。直江津港は日本海側の重要な物流拠点であるとともに、エネルギー供給など地域を支える港として発展してきました。

9月19日(土)には、「きて、みて、しって!直江津港!」と題してイベントを開催し、海上保安庁の「巡視船やひこ」の一般見学や体験航海をはじめ、港の歴史や機能を学べる展示、VR体験、港で活躍する車両の展示、麻薬探知犬デモンストレーション、タグボートによる放水ショーなど、様々な体験学習の場の提供を予定しています。

加えて10月には港湾関係者が集う記念式典も実施します。これらの取組を通じて、これまでの歩みを振り返るとともに、未来へつながる直江津港の魅力を広く発信します。



問い合わせ先／  
 上越市産業立地課  
 TEL 025-520-5737



情報発信

## 柏崎市

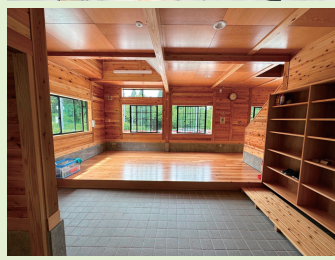
安全・快適な登山のよりどころ  
「米山ハイキングベース」がオープン

柏崎市のランドマーク、米山(標高992メートル)の太平コース登山口に、安全・快適に登山を楽しんでいただける施設が、令和8年6月6日にグランドオープンしました。

木造2階建の休憩施設は、更衣室やトイレ、足洗い場などの設備を備えており、登山前後の身支度やくつろぎの場として、お気軽にご利用ください。

また、大型バスが3台まで停められる駐車場も整備しました。学校や地域などの団体行事では非ご活用ください。大型バス利用の予約がない日は、普通車用第2駐車場として、自由にご利用いただけます。

休憩施設は、年間を通して開放予定ですので、登山愛好者から初心者の方まで、四季折々の米山登山をお楽しみください。



問い合わせ先／  
 柏崎市商業観光課  
 TEL 0257-21-2334



米山ハイキングベース紹介





情報発信

## 小千谷市

憩いと備えが融合する施設  
「ソコラテ」がオープン

令和8年6月27日、小千谷市防災公園内にスポーツコミュニティプレイス「ソコラテ」がオープンしました。

平常時は「つながる 伝える 絆を紡ぐ 学びの広場」として、スポーツや生涯学習など市民の活動を支え、災害時には拠点機能を担う施設となり、日頃の活動が災害時の助け合いにつながることを目指しています。

「ソコラテ」とは、小千谷の方言で「そこだよ」「そこらへんだよ」という意味があり、そこに行けばいろいろな人とつながることができる憩いの場として、市民から親近感と郷土愛を感じてもらうことを願って命名されました。

震災ミュージアム「そなえ館」も併設され、災害時には避難所や支援助物資集配所になるなど防災機能も有しており、中越大震災の教訓が活かされた施設です。小千谷に來た際はぜひお立ち寄りください。



問い合わせ先／  
小千谷市スポーツコミュニティプレイス「ソコラテ」  
TEL 0258-94-5460



取組

## 見附市

地域経済課に  
2つの相談窓口を設置

見附市の地域経済課内に「事業チャレンジ相談窓口」と「企業誘致相談窓口」の2つの相談窓口を設置しました。

「事業チャレンジ相談窓口」は市内外の事業者や団体・個人が考えているチャレンジの実現を後押しします。事業を始めた、新商品を開発したい、空き家・空き店舗を活用したい等、様々な相談に対応します。

「企業誘致相談窓口」は産業用地をお探しの企業や開発事業者の相談に対応します。創業したい人、移転を検討している事業者へ広くPRしていきます。

市内外からの相談に広く対応します。相談内容に適した補助金のご紹介など、見附市で事業を始める人のチャレンジを全力で後押しします。



問い合わせ先／  
見附市地域経済課 商工労働係  
TEL 0258-62-1700

「事業チャレンジ相談窓口」の  
相談申込みフォームはこちら



取組

## 加茂市

## 移住検討者を対象とした「里山暮らし移住体験ツアー」を開催

6月19日から21日までの3日間、加茂市で「里山暮らし移住体験ツアー」を開催しました。

本ツアーは、加茂市への移住や地域との関わりに関心のある方を対象に、自然豊かな七谷地区を中心とした暮らしや地域コミュニティの魅力を感じてもらうことを目的に実施したものです。2泊3日の行程では、加茂山公園や商店街の散策をはじめ、七谷エリアでのヤマメ・イワナ釣りや里山体験、地域住民や市職員との交流など、多彩なプログラムを実施しました。参加者からは「豊かな自然と生活の利便性が両立して住みやすそう」「温かい人が多い、具体的な暮らしのイメージが湧いた」といった声が寄せられ、加茂市の魅力を身近に感じていただく機会となりました。

今後、オードリー・メイト型移住体験ツアーや移住相談などを通じて、移住・定住の促進に取り組んでいきます。



問い合わせ先／  
加茂市役所政策推進課政策企画係  
TEL 0256-52-0080



情報発信

## 魚沼市

人が集い、にぎわいを生み  
出す拠点へ

にぎわい創造拠点「こいでテラス」は、まちなかエリアのにぎわいづくりを進める新たな拠点として、令和8年4月にグランドオープンしました。

施設は小出本町商店街に位置しており、昨年4月に完成した「魚沼市生涯学習センターこいら」との相乗効果により、市街地の更なる活性化を目指しています。

1階は、イベントスペースやチャレンジキッチンなどを設置し、創業準備やイベント開催等のにぎわいづくりの場としての活用ができます。

2階は、コワーキングスペース、会議室を設け、ビジネスだけでなく学習での利用も可能です。市外の方のご利用も大歓迎です。多くの皆様のご来館、ご利用をお待ちしています。



施設ご利用の  
詳細はこちら

■開館時間・休館日  
開館時間:10:00～21:00  
休館日:水曜日(水曜日が祝日の場合は木曜日)、  
年末年始

問い合わせ先／  
魚沼市産業経済部商工課  
TEL 025-792-9753



取組

## 十日町市

イタリア文化をもっと身近に  
国際交流員(CIR)と巡る  
「イタリアの休日」

令和7年にイタリア・コモ市との姉妹都市提携50周年を迎えた十日町市では、次の半世紀へと歩みを進めるため、「イタリアの休日」と称して、イタリア人国際交流員(CIR)の知見を活かした新たな文化交流イベントを定期的に開催しています。

第1回はイタリアの全体像、第2回はコモ市がある「ロンバルディア州」を深掘りし、今後は回ごとにエリアを切り替え、地域の食や文化、日本との違いをディープに紹介していきます。

このイベントは、参加者が本場のイタリア文化や姉妹都市の魅力に気軽に触れる貴重な機会となっています。伝統を大切にしながら、日常に新しい心の豊かさを広げていく十日町市のオープンな取組にこれからもご注目ください。



第1回 イタリアの休日の様子



CIR ロベルト・ヴァッカーニさん

参加者との集合写真

問い合わせ先／  
十日町市企画政策課広報広聴係  
TEL 025-757-3112



取組

## 南魚沼市

首都圏大学との連携により  
社会的課題を解決し、関係人口の増加を目指しています

南魚沼市は令和7年度に総務省の大学連携を推進する先進モデル地域に選定され、現在首都圏の多くの大学と連携協定の締結を進めています。これを契機に学生が地域に長期滞在しながら、住民と交流し、社会的課題を解決するプログラム(ふるさとみらいカレッジ事業)を展開しています。人口減少や高齢化が進むことで、増加する空き家や、お祭や行事が継続できない等の問題に対し、学生が直接地域に関わり、新たなアイデアを導入することで、解決を図ります。

併せて、このような取組を進めることで、関係人口として地域に長期で関わる学生が増えてきており、今後も「ふるさとワーキングホリデー事業」「地域おこし協力隊事業」等と組み合わせ、強固な関係人口の構築を目指します。



問い合わせ先／  
南魚沼市シティプロモーション課  
TEL 025-775-7021 FAX 025-775-7026





情報発信

## 田上町

## 初夏の護摩堂山を彩るアジサイ

6月12日(金)～7月5日(日)まで「第47回護摩堂山湯田上温泉あじさいまつり」を開催しました。護摩堂山山頂のあじさい園には、赤・青・紫・白など色とりどりのあじさいがあり、訪れた多くの方々を魅了しました。今年は、町内外の方が大切に育てた自慢のあじさいの鉢植えを持ち寄り披露する「あじさいの鉢植えコンテスト」が初開催され、会場を華やかに彩りました。また、田上小学校の児童によるあじさいにちなんだオリジナルソングの披露やあじさいをイメージしたお菓子の販売など地域一体となった取組も行われ、例年以上の盛り上がりを見せました。来年の初夏、あじさいで鮮やかに染まる護摩堂山へぜひお越しください。



問い合わせ先／  
田上町観光協会  
TEL 0256-57-6225



情報発信

## 津南町

## 大地の芸術祭通年プログラム「2026年の越後妻有」開催中！

津南町・十日町市にて11月8日(日)まで大地の芸術祭通年プログラム「2026年の越後妻有」を開催しています。(祝日を除く火・水曜日定休)  
大地の芸術祭は世界最大級の国際芸術祭であり、日本中で開催されている地域芸術祭のパイオニアです。アートを道しるべに里山を巡る新しい旅は、アートによる地域づくりの先進事例として、国内外から注目を集めています。来年度開催予定の第10回展にむけて、作品を見たことがない方、見たという方も、ぜひ今年の町内作品をめぐってみませんか？

作品の多くは里山の風景に溶け込むように設置されており、自然の中を歩きながらアートと出会う体験そのものが大地の芸術祭ならではの醍醐味です。ぜひ現地に足を運び、津南町・十日町市の里山とアートが織りなす世界をお楽しみください。



問い合わせ先／  
「大地の芸術祭の里」総合案内所  
TEL 025-761-7767



取組

## 出雲崎町

## 地域懇談会を開催しています

人口減少が進むなか、将来にわたり持続可能なまちづくりを築いていくために、今年度から地域の資源や特性を生かした地方創生に取り組みます。それに向けて令和8年4月から11月にかけて地域懇談会を開催しています。町民の声を町政に反映させ、一人ひとりの声が生きる「参加型のまちづくり」を進めるため、仙海町長が全集落を訪問し、町民の皆さんと意見交換を行っています。懇談会では、地域が抱える課題や暮らしの中で感じていることなどについて、参加者から意見や提案が寄せられています。

今後も地域懇談会を通じて町民の皆さんとの対話を重ね、いただいたご意見を今後のまちづくりや各種施策に生かし、誰もが安心して暮らせる魅力あるまちづくりを進めていきます。



問い合わせ先／  
出雲崎町総務課 地域政策室  
TEL 0258-78-2290



情報発信

## 刈羽村

## 軽費老人ホーム「とうりんホーム」開所しました！

令和8年4月に軽費老人ホーム「とうりんホーム」が開所しました。

「とうりんホーム」は、高齢者が住み慣れた地域で尊厳を持ち、自立した生活を継続するための新たな拠点として整備された、村内初の入所施設です。

本施設は、自立されている方から介護が必要な方まで幅広く入所が可能であり、既存の介護サービス等と連携しながら、地域での生活を継続することを目的としています。住み慣れた刈羽村で暮らし続けたいと願う皆さまが、尊厳を持って自立した生活を送るための新しい住まいです。近隣には「かりわ消化器内科クリニック」や大型商業施設があり、通院や買い物にも便利な環境です。「衣(医)食住」が揃う安心の環境で住み慣れた地域とのつながりを継続しながら暮らしただけでなく、今後も支援してまいります。



問い合わせ先／  
刈羽村福祉保健課  
TEL 0257-45-3916



取組

## 湯沢町

## 湯沢学園9年生発案！越後湯沢駅周辺でトウクトウクを運行しています

湯沢町では、お出かけをより便利にするための夏の交通実験の環として、三輪自動車「トウクトウク」を運行しています。

この取組は、湯沢学園9年生(中学3年生)が総合学習「湯沢町への提言」で発表した、「駅と観光地をつなぐ周遊送迎」のアイデアから生まれました。夏期限定で越後湯沢駅から温泉通り、郵便局、医療センターなど、越後湯沢駅周辺の観光地や公共施設を無料で回ります。

昨年夏、今年のゴールデンウィークに続く3回目の運行ですが、毎回観光客や地域の皆さんに大好評をいただいています。

提案してくれた生徒たちの「冬場の楽しみは雪というように、夏場の楽しみとして、今後の観光資源につながってほしい」という願いのもと、町ではこの運行を通じて、移動の課題解決と新しい町の魅力づくりを進めています。



問い合わせ先／  
湯沢町役場 企画観光課  
TEL 025-784-4850  
FAX 025-784-3582



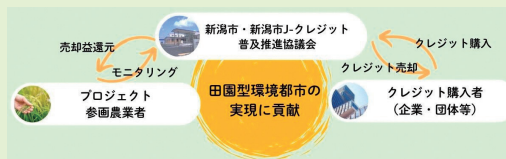
取組

## 新潟市

## Jークレジット制度を活用し農業分野での温室効果ガス排出量の削減を推進

新潟市では、Jークレジット制度の方法論「水稻栽培における中干し期間の延長」を活用し、官民から成る新潟市Jークレジット普及推進協議会において水田からの温室効果ガス排出量を削減するプロジェクトに取り組んでいます。本プロジェクトは、令和6年11月に国より承認・登録され、農業分野において自治体、Jークレジットプロジェクトの運営管理を担う全国初の事例となりました。

中干し期間の延長には令和7年度から着手し、取組面積87・5haで424tCO<sub>2</sub>のクレジットが認証されました。創出した市内水田由来のクレジットを新潟市内の企業を対象に販売することで、クレジット・資金が域内で循環する「田園型環境都市」の実現を目指し、引き続き取組を進めていきます。



問い合わせ先／  
新潟市農林水産部農業活性化研究センター  
TEL 025-362-0151





情報発信

## 新発田市

**台輪300周年に湧いた夏!まつりの力で地域活性化に取り組みました**

8月27日から29日の期間に「城下町新発田まつり」が行われました。今年は、三輪の新発田の山車「台輪」の運行300周年にあたる年で、記念の特別運行を実施しました。まつり最終日の「帰る台輪」では、6つの町内の台輪が市役所本庁舎前の中央町交差点まで延長して運行し、前輪をあげて地面に叩きつけて鼓舞する「あおり」を一齐に行い、その雄姿を見るため多くの観客が詰めかけました。

また、まつりの開催に合わせて、台輪運行300周年の機運醸成・伝統の継承のために制作したロゴマークを冠して、子どもたちに向けた台輪に関する講座や、300年の歴史を写真や動画で辿る企画展など、様々な記念事業を実施しました。

さらに、市内10の事業者が、Tシャツやトートバッグ、特別パッケージのクラフトビールなどの記念商品の開発を行うなど、歴史ある新発田まつりを契機とした地域経済活性化につながる様々な取組が行われました。



問い合わせ先／  
新発田市観光振興課  
TEL 0254-28-9960



情報発信

## 五泉市

**ラポルテ五泉 カフェ・産直シヨップをリニューアル  
地元食材を生かしたカフェメニューを充実**

ラポルテ五泉は、令和8年4月から指定管理者の変更に伴い新たな体制で再スタートしました。施設内ではカフェと産直シヨップをより魅力的にリニューアル。親しみやすく利用しやすい空間づくりを進めています。

カフェでは料理家・佐藤智香子さん監修のもと、地元の食材を生かしたメニューの充実を図っています。中でもおすすめは、「キムラファームのふわふわオムライス」です。地元・五泉市のキムラファームの新鮮な卵を贅沢に使用。注文ごとに丁寧に仕上げられるふわふわの卵は口当たりがやさしく、口に入れた瞬間に広がる豊かな風味が魅力です。ぜひご賞味ください。

また、ラポルテ五泉は今年10月に開館5周年を迎えます。これを記念してさまざまなイベントを開催予定。インスタグラムなどのSNSで随時発信していきます。最新情報をチェックしていただき、ラポルテ五泉へぜひ足をお運びください。



問い合わせ先／  
五泉市生涯学習課  
TEL 0250-42-5195



情報発信

## 村上市

**DMMグループと連携し、情報発信力を強化**

今年4月、市として初めて合同会社EXNOA（DMM・comグループ）と「地域活性化起業人制度」に関する協定を結び、地域活性化起業人として矢野要一さんを迎えました。

この取組の目的は、同社のデジタル分野やコンテンツ制作でのプロの視点を活かして、市の広報機能を強化していくことです。矢野さんは、市の広報をより魅力的なものにしていくための戦略づくりや情報発信力の向上に携わります。

今後、民間企業の専門的な知識やアイデアを市政に活かすことで、多くの人が村上市を知り、訪れてもらえるよう効果的な情報発信の取組をさらに加速させていきます。パワーアップしていく情報発信に、ぜひご期待ください。



問い合わせ先／  
村上市企画戦略課  
TEL 0254-75-8925



情報発信

## 阿賀野市

**市内の絶品スイーツ店が大集合！  
初の「スイーツガイドブック」が誕生！**

市内の観光振興と地域経済の活性化のため、初の公式冊子「阿賀野市スイーツガイドブック」を発行し、配布を開始しました。

誌面では「スイーツのまち 阿賀野」ときめき♡おやつ巡り」と題し、長年愛される老舗の和菓子店から話題の新店まで、市内29店舗のこだわりスイーツを写真付きで一挙に紹介しています。

本冊子は掲載店や道の駅あがの等で無料で配布しているほか、スマートフォン等でいつでも気軽に閲覧できる「デジタル版」も公開しています。ぜひ本冊子を片手に、ときめくおやつ巡りの旅へ出かけてみませんか？



問い合わせ先／  
阿賀野市観光協会  
TEL 0250-62-2510  
FAX 0250-61-2037



情報発信

## 燕市

**道の駅SORA-IRO国上  
「道の駅大賞2026」全国3位**

燕市の道の駅SORA-IRO国上は、宝島社発行の雑誌「田舎暮らしの本」が実施した「道の駅大賞2026」において、全国総合3位、北陸ブロック1位に選ばれました。

宿泊可能なキャンプエリアや天然温泉「てまりの湯」、地元の特産品をそろえる農産物直売所「313ファーマーズマーケット」、燕市の金属洋食器を扱うシヨップなど、「自然と遊ぶ、道の駅」をコンセプトとした多彩な魅力が高く評価されました。また、四季折々の自然を感じながら、食や体験を通じて地域の魅力に触れられる場として、多くの人に親しまれています。

今後も、食や体験、ものづくりを通じて燕市の魅力を発信し、人と人とのつながり、笑顔が広がる交流拠点として、さらなる来館者増加を目指します。



詳細はこちら



問い合わせ先／  
燕市地域振興課  
TEL 0256-77-8361



情報発信

## 胎内市

**胎内版公共ライドシェアの  
本格運行がスタート！**

今年4月より、夜のタクシードライバー不足解消を目的に「胎内版公共ライドシェア」の本格運行を開始しました。

夜間における交通空白改善を目的として、運転代行業者の協力を得ながら昨年度実証運行を行い、この度の本格運行が実現しました。

利用者の安全と安心感確保のため実際の運行を担う代行業者のドライバーは第二種運転免許保有者に限定しています。県内でも、運転代行業者が担う運行形態は珍しい取組です。金・土曜は20時～翌2時、その他は20時～翌1時の夜間帯の運行で、料金はタクシーと同程度の距離制運賃です。

安全で円滑な移動手段の確保を通じて利便性の向上が図られるとともに、より一層地域経済に活気生まれるよう今後も取り組んでいきます。



問い合わせ先／  
胎内市総合政策課  
TEL 0254-43-6111





情報発信

## 聖籠町

### トイレトレーラーを導入

避難所のTKB（トイレ・キッチン・ベッド）環境の向上のため、令和8年3月にトイレトレーラーを1台導入しました。トイレトレーラーは、水洗トイレ3基（うち1基は車いす対応）が設置されたけん引式のもので、けん引車も同時に導入しています。財源については、新しい地方経済・生活環境創生交付金の地域防災緊急整備型（令和6年度補正予算）を活用し、簡易ベッドや炊き出し用資機材なども購入しています。

平時の利用として、各種イベント会場に設置し、町の取組紹介と併せて、トイレトレーラーの快適性、利便性の周知に活用しています。

また、大規模な災害発生時には、被災地を支援するために、他地域への派遣も想定しています。



問い合わせ先／  
聖籠町 生活環境課  
TEL 0254-27-2111



情報発信

## 関川村

### 冬の関川村を満喫！ 2月の雪イベントをご紹介します

関川村では、冬の魅力をたっぷり味わえる2つの伝統的な雪イベントが毎年2月に開催されます！

冬の関川村へ、ぜひ遊びに来てください！

① おおいしどもんこまつり

「どもんこ」とは関川村の方言で「かまくら」のこと。巨大なかまくらや楽しい雪遊びで、大人も子どもも大興奮！

② 七ヶ谷雪ほたる

約千本の雪灯籠や美しい雪像に明かりが灯り、一面が幻想的な世界に包まれます。また、イベントを楽しんだ後は、村内の日帰り温泉「ゆゝむ」で冷えた体をじんわり温めるのがおすすめの黄金ルートです。



問い合わせ先／  
関川村 地域政策課  
TEL 0254-64-1478



情報発信

## 弥彦村

### 窓口BPRの取組 住民も職員も共にハッピーに！

弥彦村では、デジタル庁の窓口BPRアドバイザー派遣制度を活用し、令和6年11月に窓口利用体験調査を行うなど、課横断で窓口BPRに取り組んでいます。

庁内の掲示物の整理や案内表示の見直し等、できるところから取組を進め、令和8年1月の住民記録システムの標準化移行にあわせて、窓口DXaaSを稼働しました。

システムはあくまで手段であり、重要なのは、それを活かす業務プロセスや組織体制の整備です。そのため、窓口DXaaSの効果的な運用を目指して、机等のレイアウトも大幅に見直し、職員・来庁者の動線を簡略化しました。職員の声「移動がラクになった」や、利用者からの5段階評価で平均4.5ポイントと高評価をいただいています。

今後も、住民・職員がともにラクになる理想の窓口を目指してBPRを進めていきます。



問い合わせ先／  
弥彦村住民福祉課  
TEL 0256-94-3132



情報発信

## 栗島浦村

### 栗島浦小中学校でスクールランチの提供が始まりました

4月13日から栗島浦小中学校にて、スクールランチ（給食）の提供が始まりました。これは「地域みらい創造事業」を推進する地域おこし協力隊員たちが調理しており、月曜日から金曜日の週5日提供されます。今までは週2日のお弁当給食でしたが、提供内容と提供日を拡大しました。

提供初日の献立は「豚肉生姜焼き、アスパラのおかか炒め、さつまいもオレンジ煮、味噌汁、ご飯」（掲載画像のもの）でした。育ち盛りの児童生徒たちの健康を考慮した、栄養バランスの良い食事となっています。

実際に食べた児童生徒たちからは、「優しい味がする」「温かい」といった声が聞こえてくるなど、好評を得ています。また、しおかぜ留学生として栗島浦村に離島留学している児童生徒からは「前の学校の給食を思い出して懐かしい」といった声もありました。



問い合わせ先／  
栗島浦村役場 総務課  
TEL 0254-55-2111 (8:30～17:00)  
FAX 0254-55-2159



情報発信

## 阿賀町

### 子どもたちの笑顔が集う交流拠点 全天候型あそびの広場「あがりーな」

阿賀町では、子育て環境の充実と交流人口の拡大を目的として、2024年6月に全天候型あそびの広場「あがりーな」をオープンしました。道の駅「阿賀の里」敷地内に整備された施設で、阿賀町産木材を活用した坂の広場や大型ネット遊具、デジタル砂場、ボルダリングなどを備え、天候に左右されることなく子どもたちが自由に遊べる空間となっています。利用料は無料で、町内外から多くの家族連れが訪れる人気スポットとなっており、開設以来、来場者数は20万人を突破しました。現在では、阿賀町の新たな交流拠点として定着するとともに、道の駅利用者の増加や周辺観光施設への周遊促進にもつながっており、子育て支援と交流人口の拡大を支える施設として、多くの方に親しまれています。



あがりーな



さかのひろば



問い合わせ先／  
阿賀町まちづくり観光課  
TEL 0254-92-4766



情報発信

## 佐渡市

### Instagram投稿キャンペーン 「私の推しADOキャンペーン」開催中

佐渡で出会った美しい風景、食、人とのふれあい、忘れられない体験など、皆さんが感じた佐渡の「推し」の魅力をInstagramで投稿いただくキャンペーンを実施しています。観光で佐渡にお越しの皆さまや佐渡在住の皆さまなど、どなたでも参加いただけます。

キャンペーン期間中の投稿の中から、審査により合計70名様に佐渡産コシヒカリ1年分、佐渡汽船スイートルーム往復乗船券、宿泊券、食事券などの豪華賞品を進呈します。

たくさんのご参加をお待ちしています！

観光でお越しの皆さまや  
佐渡在住の皆さまなど  
どなたでも参加できます！

フォローは  
こちらから



キャンペーン  
特設ページ



問い合わせ先／  
佐渡市観光振興課 観光戦略係  
TEL 0259-67-7602



# 前例なし、マニュアルなしの10年計画に挑む！ 新潟市「おいしさDX」2年目のリアル

若手職員が突撃！



【新潟市】  
○人口※1:751,099人  
○世帯数※1:354,485世帯  
○面積※2:726.01km<sup>2</sup>  
※1 R8.6末現在  
※2 R8.1.1現在

## 2本の柱と産学官共創の特徴

本プロジェクトは、大学による「味の特性分析サービス」とIT企業による商品開発AIシステム「iDeark（アイディアーク）」が2本の柱です。

前者は産品をデータ化して特徴を伝えることで、消費行動の変化や商品価値の向上を目指すものです。後者は食品メーカーの社内に蓄積された過去のレシピや試作の記録と、Web上の市場トレンド情報をAIが整理、加工し、担当者のノウハウをデータ化して資産に変えることで、企画から開発までのプロセスを効率化するシステムです。この2本の柱を軸に、令和8年6月時点で72社が参画する「おいしさDX共創コミュニティ」の活性化を図っています。



▲「おいしさDX」2本の柱

「地元の基幹産業である食品製造業の付加価値を、いかにして高めるか」その問いに向き合い、新潟市は「にいがた2kmおいしさDX産学官共創プロジェクト」を立ち上げた。内閣府の地方大学・地域産業創生交付金を活用した10年計画（令和7～16年度）で、市・新潟大学・IT企業（株）メビウスが三位一体で推進し、今年で2年目を迎えています。

大学の分析技術とIT企業の商品開発AIを組み合わせ、最先端技術をいかに社会実装していくか。前例やマニュアルのない新規事業を前に、現場で汗をかく行政職員の仕事の舞台裏に迫ります。

## おいしさを可視化したデータが売上を動かした

### ○「茹で」vs「焼き」の違いをデータ化

—置くだけで枝豆の売上が最大2倍に—  
最初の成果が、枝豆の実証実験でした。大学が「茹で」と「焼き」で旨味や苦味・雑味がどう変わるのかを科学的に分析し、違いを味覚チャートで「見える化」しました。居酒屋に味覚チャート付きPOPを置くだけで、「焼いたら味変わるの？」という会話が生まれ、追加注文が増加。協力4店舗で売上が

プロジェクト最大の特徴は、産学官の「フラットな関係性」と「各プレイヤーの圧倒的な熱量」です。市は「事務局」として全体の方向性をコントロールしつつ、事業責任者はIT企業、副事業責任者は大学が担う体制を構築。行政がしっかり全体を支えながらも、産学官の誰もが対等に意見を交わし合える関係性が事業の推進力となっています。  
また、各種日程調整の段階から優先的に調整して駆けつけてくれるため、企業や大学のこの熱量に負けないよう、市としても全力でボールを打ち返し続けることを何より大切にしています。

## 2年目のリアル：コーディネーターが鍵だった

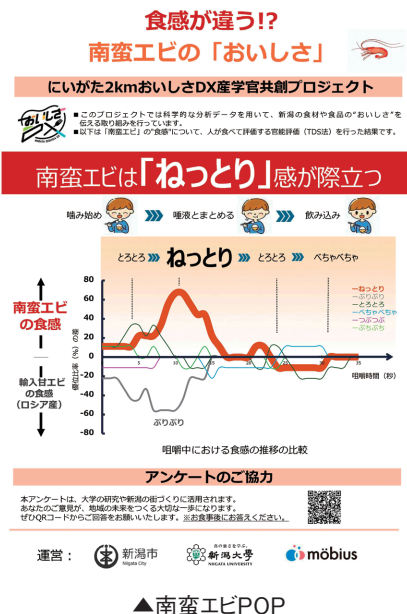
○「データがあれば事業者が集まる」わけではない  
1年目は「分析データさえあれば、事業者が自然と集まる」と思っていました。そんな甘い考えはありませんでした。データを誰にどう届け、どう使ってもらうのかをデザインする「コーディネーター」がいなければ、大学の研究成果は宙に浮いてしまい社会実装されません。2年目で最も痛感したのは、まさにこの点でした。

○プレイヤーに強力な武器としてデータを届ける  
味噌の事例がうまくいったのも、元々コーディネーターと自発的に動いていた事業者へデータを提供したからです。枝豆や南蛮エビも、「この食材を売りたい」という生産者や飲食店の思いが先にあるからこそ、データが活きました。

「分析データを起点に事業者を集める」のではなく、「既に目的を持って動いているプレイヤーに、強力な武器としてデータを使ってもらう」、この順番が重要でした。

○難航する飲食店へのアプローチ  
「たどり着いた「ランチ後の突撃営業」——プロジェクトを進めるためには、共創コミュニ

1.2～2倍に跳ね上がりました。  
このアプローチは南蛮エビの事例でも新たな可能性を見せており、「ぷりぷり」ではなく「ねっとり」した食感や旨味の強さをデータで証明し、顧客の関心を高めています。



ニティの輪を広げる必要があり、「参画事業者の拡大」が不可欠です。なかでも特に難航していたのが飲食店で、日々多忙なため、メールなどの間接的な手法では情報が届きませんでした。

そこで、たどり着いた答えが、ランチ営業を終えた午後の時間帯を狙って「直接お店に会いに行く」でした。対面だからこそ伝わる熱量があるからです。当グループの長も、思い立ったらすぐ自ら現場へ営業に出かけ、帰ってきた『好感触だったよ！』と報告してくれる。そんなスピード感とフットワークで動いています。

○事業者と研究データ、コーディネーターを繋ぐ架け橋として

現在、コーディネーターが不足しているため、市がその役割を担いながら、事業者同士のマッチングを地道に積み重ねています。

このプロジェクトの根底には、「研究を研究で終わらせない」という強いテーマがあります。大学の先生方も、自らの研究成果の社会実装を本気で望まれています。それは、現場と研究を「つなぐ人間（コーディネーター）」がいなければ叶いません。現場・研究・コーディネーターの3者をつなぎ、社会実装まで伴走する。その役割を担うことこそが、私たち市職員の重要な仕事なのだ、この2年間の現場を通じて強く実感しています。

## 10年計画を組織で動かす「熱量の持続」という課題

長期にわたる10年計画において、市としての一番の課題は「プロジェクトの継続性」です。大学や民間と対等に渡り合い、国とも折衝し続けるためには、担当者の高い熱量が欠かせません。

正直に言うと、現在は特定のキーマンによる人脈や営業力、熱量に引っ張られている側面もあります。人事異動があるなかで、この「個人の熱量」をい

に組織の「仕組み」へと落とし込み、次世代へ継承していくか。これが今見えてきた大きなテーマです。一方で、確かな希望の光もあります。私たちのプロジェクトが起点となり、「本気で地域を変えよう」とする事業者たちが、コミュニティの枠を超えて独自に動き始めていることです。本プロジェクトの熱は確実に地域へと伝わり、自走の種を撒いています。

## 県内市町村職員へのメッセージ

○「前例がない」は、チャンスだ  
自分が担当している事業が楽しいか、苦しいかの判断はすべて自分次第です。本プロジェクトのように「前例がない」事業は、役所にいるとなかなか経験できないチャンスです。何と言っても、過去に縛られることがないので、自分の意見をダイレクトに施策へ反映し、自ら現場を動かしていけるからです。当然責任も伴いますが、失敗を恐れず「その日、その時の私が出した最善」を毎日繰り返していれば後悔はありません。組織の壁や前例に臆することなく、上司にどんな提案して、実行に移しましょう。



今回取材にご協力いただいた  
新潟市都市政策部 間島さん



## 人事交流

市町村⇒県  
県⇒市町村

# 近況報告

南魚沼市  
県環境対策課

桑原 悠

令和6年度から環境局環境対策課でお世話になっています。

私は自然共生室鳥獣管理係で、野生鳥獣の管理や保護の業務をしています。管理の分野では、有害鳥獣を捕獲する担い手の確保に関する補助事業などの事務を行い、保護の分野では、ケガをした動物の保護（捕獲）や、鳥獣保護区などの管理を行っています。庁舎内での事務だけでなく、現場や庁舎外で多くの人と関わる機会があるため、日々新鮮な気持ちで業務に携わっています。

県庁の業務は、分野が多岐に渡っていることや、事務執行の合意形成方法が市役所とは異なる部分があることから、最初は戸惑う場面が多々ありました。しかし、係員や上司、関係課、地域振興局など多くのみなさんの人柄の良さと豊富な知識に助けられ、一歩ずつ業務を前に進めることができています。

当係では、「クマ」への対策を行っています。私が着任した令和6年度からは、指定管理鳥獣への追加や大量出沒により、さまざまな施策を実施してきました。私は直接



係員の集合写真（前列左から2番目が桑原）

の担当ではありませんでしたが、課題解決のため、計画の改定や多くの関係機関との調整を迅速に行い、施策を推進する様子を間近で見ってきました。そのスピード感と正確さを兼ね備えた仕事の進め方は、まさに模範となるものと感じ、大変刺激をもらいました。県庁での日々は、抱えていた不安を忘れるほど、多くの学びと出会いと刺激があります。自分自身の成長につながる素晴らしい環境で、業務に携われたことを大変うれしく感じています。

残りわずかな派遣期間ではありますが、引き続き責任をもって業務に取り組んでいきます。

新潟県  
新潟市都市交通政策課

米倉 菜美

令和7年度からの2年間、都市政策部都市交通政策課地域交通整備室でお世話になっており、郊外部の路線バスや各区の区バス・住民バス等の業務を担当しています。

昨年度は、区バスの利便性向上を目的として平成27年度から導入している区バス位置情報システムを更新に携わり、新システム導入に向けたプロポーザルを実施しました。プロポーザル業務を担当するのは初めてであり、仕様書の作成や事業者選定など慣れない業務に苦労しましたが、関係者との調整を重ねながら進め、無事に導入までたどり着くことができました。

また、今年度からは当室の重要事業である新潟市南区及び周辺地域の生活交通効率化事業に携わっています。A I オンデマンド交通の実証運行に向けて、A I システムのプロポーザルや電話受付事業者との契約、法定会議での説明資料の作成などを担当しており、室全体で連携しながら準備を進めています。地域の公共交通のあり方を検討する重要な事業に携

わることができ、大きなやりがいを感じています。

派遣期間中は政策形成に関する業務が中心となり、県庁で経験してきた事業執行や予算業務とは異なる視点が求められるため戸惑うこともありましたが、しかし、予算事務や関係機関との調整など、これまで培った経験を活かすことができ、各区役所との連携が求められる現在の業務にも役立つと感じています。

派遣期間も残り約半年となりましたが、この2年間で得た知識や経験を県庁に戻った後も活かせるよう、引き続き業務に取り組んでいきたいです。



こちらのビルで働いています。



おすすめ!

ふるさと納税お礼品の紹介

村上市

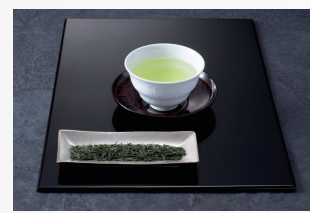
① 鮭製品

独自の鮭文化が今も根付く村上市。鮭の全てを無駄なく使いきる村上の鮭料理は100種類を超えると言われています。代表料理の塩引鮭は、職人によって丁寧に仕込まれ、北西の冷たい風の中にさらされてゆっくり乾きながら、発酵、熟成し、旨みを凝縮していきます。他にも、鮭の生ハムや鮭の酒びたしなど、村上ならではの味を取り揃えています。



② 村上茶

江戸時代初期に栽培が始まったとされる村上茶。今では北限の茶処として、全国に知られています。その特徴は、春先の寒暖差や日照時間の短さから、渋味のもととなるタンニンの少ない、まろやかさにあります。また、手軽に飲むことができるペットボトルやティーバックもおすすめです。



③ 瀬波温泉利用券

瀬波温泉の魅力は、何といっても日本海に沈む夕日を眺めながら、ゆったりとお湯につかれることです。新鮮な海の幸をたっぷりと食しながら、心も身体も温まり、至福のひとときをお過ごしいただけます。



問い合わせ先／村上市観光課  
TEL 0254-75-8943  
FAX 0254-53-3840

魚沼市

「純米大吟醸目黒五郎助」と「純米吟醸越乃雪蔵」の2本セット

魚沼市といえば魚沼産コシヒカリの印象が強いですが、雪国の清らかな水と米づくりの文化に育まれた日本酒も、当市の魅力の一つです。今回紹介する玉川酒造の「純米大吟醸目黒五郎助」と「純米吟醸越乃雪蔵」の2本セットは、金賞・プラチナ賞など合計7冠に輝いた、高い評価を受けている日本酒です。目黒五郎助は華やかな吟醸香と旨みの調和が特長で、越乃雪蔵は魚沼の雪解け伏流水で仕込んだ、すっきりとした淡麗な味わいが楽しめます。どちらも一升瓶で専用化粧箱入りのため、ご家庭での飲み比べはもちろん、大切な方への贈答用にも適しています。米だけではない魚沼の魅力を、日本酒を通して感じていただけるお礼品です。



ふるさとチョイス

問い合わせ先／魚沼市 地域創生課  
TEL 025-792-9752 MAIL chiki@city.uonuma.lg.jp

粟島浦村

人気ご当地アイス2種4個セット  
づんだアイス2個&あまごころミルクアイス2個

粟島は、新潟県村上市の北西約35km、周囲約23kmの日本海に浮かぶ自然豊かな島です。そんな粟島の旨味を生かした返礼品の「づんだアイス&あまごころミルクアイス」のセットをご紹介します。

【づんだアイス】  
粟島の良質な土が育んだ在来種大豆を使ったオリジナルアイスです。枝豆の優しい風味とほのかな甘みが後を引く美味しさとなっていて、ご褒美スイーツやおやつなどに最適です。

【あまごころミルクアイス】  
粟島に自生している山菜「あまごころ」の根つこの部分を炒ってミルクと合わせたオリジナルアイスです。ほうじ茶のような香ばしい味わいが特徴で、「一度食べるとハマる!」とリピーターが多いアイスです。ぜひご賞味ください。

これらはセットにて販売しております。二つを食べ比べてみて粟島の味をご堪能ください。



ふるさとチョイス

問い合わせ先／一般社団法人 粟島観光協会  
TEL 0254-55-2146 FAX 0254-55-2323

編集後記

「特集」では、インバウンド受入事業として、佐渡市の事例を取り上げました。インバウンド施策は、地域経済を活性化するとともに、県内各地域の魅力を世界中に広めるきっかけとなります。今回ご紹介したインバウンド受入を進めるうえでのポイントを参考にしながら、各地域の「オンリーワンの価値」を考えるきっかけにいただければ幸いです。

「施策取組紹介」では、マイナパンカードについて取り上げました。更新需要の増加に向け、円滑な窓口体制を整備していくことは、市町村職員の負担軽減及び住民利便の向上につながります。ご紹介している国の支援や県内市町村の事例等をご確認いただき、ぜひ積極的な取組をご検討いただければと思います。また、マイナパンカードの活用シーンも拡大しているため、職員や住民の皆様へのご周知をお願いします。



本号の表紙

特集を組んだ「佐渡島」にて、佐渡島の文化を満喫する外国人観光客の様子です。佐渡島でしかできない体験を楽しんでいるようです。





# ハロウィン ジャンボ

1等・前後賞合わせて4億円  
1等2億円、前後賞各1億円

# 4億円

# ハロウィン ジャンボミニ

# 4,000万円

1等・前後賞合わせて4,000万円  
1等2,000万円、前後賞各1,000万円

各1枚  
300円



## 9月16日(水) 発売

発売期間／9月16日(水)～10月16日(金) 抽せん日／10月26日(月)

PCやスマホで!  
ネット購入

🔍 宝くじ公式サイト

<https://www.takarakuji-official.jp/>



(公財)新潟県市町村振興協会 2026年新市町村振興宝くじ

この宝くじの収益金は市町村の明るいまちづくりや環境対策、高齢化対策など地域住民の福祉向上のために使われます。